

## 【小学部・訪問教育】

「訪問教育」とは、健康状態や体調により毎日学校に通学することが困難な児童生徒に対し、教員がご家庭に訪問して行う学習のことをいいます。また、児童生徒の体調に応じて学校へ登校してクラスの友だちと一緒に学習する「スクーリング」も併せて実施しています。

訪問の授業は学校の授業と同様に、まず朝の会で始まります。朝の会では、名前呼びや朝の歌、1日の学習の予定を確認します。予定を知り見通しを持って取り組むことや、学習する構えを作ることをねらいとして行っています。また教員は、この時間に児童のその日の体調を把握することを大切にしています。

次に「からだの時間」ということで担任や自立活動支援担当によるストレッチを行い、様々な姿勢に慣れたり関節の拘縮予防のために取り組んでいます。登校した日だけでなくご家庭でもしっかり身体を動かすことで、呼吸が楽にできたり腕を動かしやすくなり、心地よさや安心感をもって授業に臨めるようになります。

今回は小学部の「遊びの指導」の様子をご紹介します。今は「冬のあそびをしよう」という授業です。訪問学習でもちつきやコマ回しなどを、児童の得意な腕の動きで動かせるよう工夫した教材で行っています。動く仕組みがわかり、意欲的に腕を動かし紐を引っ張っています。

またスクーリングの日にはクラスの友だちと一緒に、様々な冬のあそびがお題のすごろくをしています。例えばコマ回しのマスでは、紐を引っ張ってコマを操作すると、コマ役の友だちが台車に乗ってクルクル回っています。雪遊びのマスでは雪に見立てた白いスponジのプールに友だちと一緒に入って感触を楽しむなど、友だちと一緒に活動する楽しみも合わせた学習に取り組んでいます。訪問の時と同じ授業内容にすることで、学校でも見通しを持って主体的に授業に取り組むことができます。

そして写真右下のカレンダーは、1年間をとおして学習ができた日にちに丸つけをする取り組みを行っているものです。自分でペンを持つ腕を大きく動かして、たくましい線でしっかり丸をつけています。これまでの学習した軌跡がわかるカレンダーです。

